病 防 第 141 号
令和７年７月２日

関係機関長 あて

沖縄県病害虫防除技術センター所長名
（ 公 印 省 略 ）

病害虫発生予察技術情報について

令和7年度病害虫発生予察技術情報第2号を発表したので送付します。

令和7年度病害虫発生予察技術情報第2号

ナスミバエのまん延防止について

北大東村を除く沖縄県全域においてナス科作物の重要害虫であるナスミバエの発生が確認されています。ミバエ類果実調査においてシマトウガラシ等から本種の発生が確認され、今後も寄生による被害の発生が懸念されます。本種による被害拡大防止のために防除対策を徹底しましょう。

1 ナスミバエの生態

(1)ナスミバエ(*Bactrocera latifrons*)はハエ目ミバエ科に属しており、東南アジア、ハワイ、タンザニア等に生息しており、我が国では沖縄県(北大東村を除く)と鹿児島県の一部のみに生息している。
(2)成虫は体長約7mm(図1)。幼虫はうじ状で体長7～10mm で乳白色～黄白色である(図2)。
(3)年間世代数は 10 世代程度である。雌成虫は果実に産卵管を刺して産卵する(図3)。幼虫は果実内部を食害し、老熟すると果実から脱出して、地中で蛹化する。
(4)主な寄主植物はナス、トマト、ピーマン、シマトウガラシ、テリミノイヌホオズキ(図4)などのナス科植物である。

2 果実の被害

シマトウガラシやテリミノイヌホオズキ、家庭菜園のナス科植物の果実被害が顕著である。幼虫が寄生した果実は腐敗する(図5)。シマトウガラシやテリミノイヌホオズキでは果実が水浸状となる(図6)。

図１ ナスミバエ成虫

図２ ナスミバエ幼虫

図３ シマトウガラシに産卵するナスミバエ雌成虫

図4 テリミノイヌホオズキ

図5 ナス果実の内部腐敗

図6 シマトウガラシ(左)とテリミノイヌホオズキ(右)の被害

3 防除対策

(1) 登録農薬による防除を実施する。
(2) ほ場内外の野生寄主植物(テリミノイヌホオズキ等のナス科植物)の除去を徹底する。
(3) ほ場内での被害果実や果実残さ等は、丈夫なビニール袋に入れガムテープでしっかり密閉し、1か月程度放置してから処分する(図7)。
(4) ナス科野菜の栽培施設では、出入口に二重カーテンを設置し、被覆ビニールおよびネット等の破損部分は直ちに補修する。
(5) 施設栽培では側面、天窓、出入口に目合い 1.6 mm 以下の防虫ネットを設置し、侵入防止に努める。
(6) 露地栽培では植物体を防虫ネットで被覆するか、果実に袋がけをする。
(7) 果実の移送の際は、産卵防止のため果実の露出防止対策を行う。

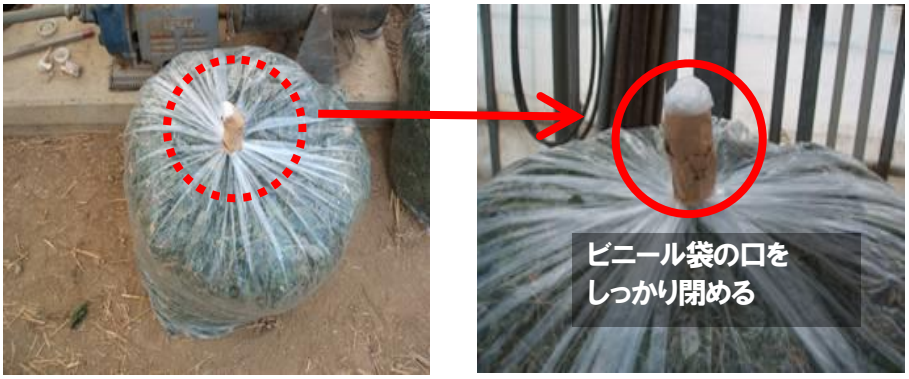

図7 ビニール袋による残さ物の密閉の仕方

4 まん延防止対策

(1) まん延防止のため、シマトウガラシ等辛味とうがらし類(実付き苗、観賞用含む)の生果の未発生地域への移動は自粛する。他のナス科果菜についても発生地域から未発生地域へ出荷する場合は、被害果実が無いか十分確認する。
(2) ナスミバエによる被害果実は外見からでは判断が困難な場合があるので、疑わしい果実を発見したら放置せず、ビニール袋などに密閉し、適正に廃棄する。

※ナスミバエ防除の詳細は下記 HP からご確認ください。
https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/1018771/1010577.html

★詳しくは県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL：(本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933
ホームページアドレス ： https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html